

## 倫理委員会 元委員長 佐崎雅史氏を偲ぶ

花田 眞吉

### 【元委員長 佐崎雅史氏 を偲んで】

佐崎さんは数年前に肝臓癌を患い半分ほど切除したが、その後元気に勤務を続けながら倫理委員会相談役、特別上級土木技術者北海道会議幹事を担当し、また、複数の(株)ドーコン退職者仲間のグループに参加され、癌治療を続けていることやカツラを使用していることなどを周りの多くの人が気づかないくらい元気で明るく過ごされておりました。しかしながら、令和2年1月に入って病状が急変され、治療の甲斐なく6月17日(水)にお亡くなりになりました。ここに倫理委員会(研究WG)全員から哀悼の意を表します。



第5回技術者倫理フォーラム(2014年5月(H26))  
開会挨拶する佐崎委員長

佐崎さんと技術者倫理に関して最初に話をしたのは、倫理委員会の前身である倫理研究会が発足した平成21年(2009)の時である。佐崎さんとは(株)ドーコンの同僚であったが、倫理に関して話題にしたことは無く、その時に「第3版 科学技術者の倫理～その考え方と事例～(2008年丸善)」を技術士の仲間と翻訳し出版した事を聞き、すごい人が入会してくれたと心強く思ったものである。



倫理問題を研究しはじめの頃は「各課題に対してどのような手順や手法で解決策を見いだすか」に悩んだものであるが、佐崎さんは第2回技術者倫理フォーラム(H23.5.31)で今井氏と二人で「環境保全と会社の利益で悩む企業内技術者の悩み」の事例研究報告を行い、この事例を通じて①公衆の安全か企業への忠誠か？②忠誠と誠実とは何か？③企業のあるべき姿とは？などの問題を提起し、これらを伏線としながら倫理問題の解き方の検証を行って頂き大いに参考になったものです。また、委員長(2013年7月～2015年6月)時代には、「土木技術者の倫理(編作 能登繁幸氏)第7章 真実、正直および信頼」についての事例研究を立花氏と二人で発表して頂くなど、倫理委員会活動を10年以上にわたり導いて頂いたことに対しては感謝という言葉以上のものではありません。これは、佐崎さんの穏やかな人柄で研究熱心、そして博学であり、また話の合間に時々ダジャレを入れるなど、皆から慕われ、尊敬されてきた佐崎さんの人徳の為せる業に他ならないと思っています。



第 1 回技術者倫理フォーラム(2010 年 3 月(H22))  
倫理研究会 佐崎幹事、花田代表、田岡講師

委員会活動の副産物として定例の研究 WG や幹事会の後に行う懇親会があります。この懇親会こそが全員の意思統一の裏の源流でありいつも和気藹々と意見交換、情報交換をしています。この中で佐崎さんとの思い出の話が 3 つあります。

1 つ目は、ダム部門の時に高さ 20m 以上の洪水吐側壁に逆 T 式擁壁を用いて設計した話がありました。自分は橋梁部門なので 20m 以上の擁壁はバットレス擁壁を採用するのが常識であり、ダムの様な大型構造物を設計する人との感覚のギャップに驚いたこと、



第 10 回技術者倫理フォーラム(2019 年 6 月(R01))  
懇親会壇上で思い出話をする 佐崎氏、中野氏、富澤氏

2 つ目は、出身高校は旭川西校で、後輩に中野淑文さんがおり、二人の話を聞いていた時に、佐崎さんはラップズボンに極小直角学帽、高下駄のバンカラスタイルで二年目を 1 年間過ごしたと聞き、旭川西校はすごい学校だとビックリしたこと、

3 つ目は、名古屋大学に入学した時は建築を目指していたが理数があまり得意で無く土木に進んだが、構造力学に成岡先生がおり、非常に著名な先生ですが学生には厳しい先生でもあり、単位を取るのに非常に苦勞し、いじめられたので“成岡”は嫌いだ！嫌いだ！と言っていました。実は自分(花田)の技術士試験の経験問題に成岡先生の時系列応力伝達式、例えばピストルの弾が当たった時に応力・ヒズミが時間毎(例えば 1/100 秒毎)にどの様に伝わり物が破壊するかの方程式を参考にして、地滑りで被害を受けた橋台を橋脚に造り替える時の補強設計を行っていたので、成岡先生を尊敬しており、佐崎さんは“成岡は嫌いだ！”、自分は“好きだ！”と言いついて二人で大笑いしたことがありました。

(株)ドーコン水工部時代は高度成長の最中であり、色々な多くのダムを手がけ、現場での想定外な事態に遭遇した時には、現地を調べ、文献を調べ研究熱心で発注者からの信頼も厚く、これらを通じて美利河ダムで土木学会技術賞を受けた時には非常に嬉しかったことと思います。

特別上級土木技術者北海道会議の講演会でも倫理委員会研究 WG の時でもテーマはいつも違うのですが、的を射た意見を何時も拝聴し、普段いかによく本を読んでいるか、その博学に圧倒されいつも感心していました。

今年初めに体調が優れないと聞いておりましたが、この度の訃報は大きなショックであり大切な人を亡くしたと思っています。これからは佐崎さんの教えを心に我々も頑張ってください。

安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

合 掌

### 【佐崎さんを偲んで(今井淳一)】

自分が佐崎さんと最初に交流をもったのは、ドーコン時代まで遡ってのことです。当時、彼がダム部長で、自分が人事部次長時代に、人事考課に関する部メンバーの評価シートの受け渡しや評価結果への対応など「技術者倫理」とは別次元でのことでした。当時の佐崎さんの印象は、「ゴルフはハンディがシングル、技術者としてダム技術のエキスパートで、かつ部の統括にも長けている」との評判を聞いていたので、どんな凄い人かと思っていました。しかし実際に交流すると、「気さくで、何でも話せる人物であった」といった印象が自分の佐崎さんに対する評価でした。次に、佐崎さんとの交流が再開したのは、彼が倫理研究会に入会し、幹事会メンバーとなった平成 21 年からです。幹事会では彼の幅広い知識や奥深い洞察力で、色々の場面で委員会をリードして貰ったことが記憶に残っています。特に幹事会後の懇親会では、模擬事例研究の課題方向性について議論したり、中野委員、故中村委員との 3 人で多くの意見を皆に提供して貰ったことが印象として残っています。

一方、エピソードとしては、平成 23 年の第 2 回技術主倫理フォーラム(5 月 31 日)での事例研究報告で、佐崎さんと私で「環境保全と会社の利益に悩

む企業内技術者」について、二人の掛合いで発表したことです。これは、フォーラム後の情報交換会で能登顧問から、「あの掛合い漫才は学芸会以下のヒドイものだった」と醜評され「素人芝居はするものじゃない」ことを肝に銘じました。

佐崎さんとの思い出はドーコン時代から現在まで約 20 年、倫理委員会、特に同じ幹事会メンバーが取り持つ縁で数多くあり、自分にとっても大変お世話にもなり、色々なことを教えていただいた方でした。今回、このような機会をいただき、改めて佐崎さんとの思い出を偲ぶことが出来ました。

佐崎さんのご冥福をお祈りいたします。ありがとうございました。



第 2 回技術者倫理フォーラム(2011 年 5 月 31 日)



第 10 回技術者倫理フォーラム(2019 年 6 月(R01)) 懇親会での記念写真  
最前列左から 3 人目佐崎氏 隣に能登氏

以下の文章は「第1期 倫理研究会 活動報告書(2008年(H20)6月～2013年(H25)3月)」に掲載された佐崎さんの感想文です

## 倫理と効率

倫理研究会 幹事 佐崎 雅史

私はこれまで、何事にも効率を重んじてきた。効率とは言い換えればスピードである。戦後間もなくこの世に生を受け、高度成長時代を突っ走ってきた者にとって一番求められたのが、この効率である。その頃よく言われたのが、西洋人は、よく考えてから走り出すが、日本人は走り出してから考える。私もそんな日本人以上に、典型的な日本人だった。

仕事を効率的にいち早くこなすのに必要なことは、結論ありきである。なにせ評価軸が一つしかないから、結論はすぐに出る。あとはそれに向かって突っ走るだけである。結論に合わないことは、屈理屈を付けてすべて排除していく。こうやって最初からストーリーを考えて、さも検討に検討を重ねて結論を出したような報告書が出来上がる。仕事を始めたころはそれで良かったが、段々それが通用しなくなった。手戻りも増えてきた。それも何とかこなして行って、仕事にようやく油が乗ってきた頃に管理の方に回された。管理でも手っ取り早いのが効率重視である。それを10年ほどやったら、今度は会社経営である。それも効率重視で10年ほど行った。私の下についた者は本当に迷惑を蒙ったことだろう。誠に申し訳ないことをした。

そんな時、図らずも倫理研究会に入会した。当たり前なことだが、ここでは効率重視は全く通用しない。しかし、長年の癖はそんな所そこらで治るものではない。すぐに結論を求めてしまう。そういう時は、代表を始め多くの会員にすぐに痛いところを突かれてしまう。最初からやり直しである。しかし、今度は腰を据えてじっくりと考える。自分に言い聞かせる。急がなくていいんだから、と。おかげで、長年の凝り固まった性癖が少しずつ解凍されてきたように思う。寄り道、回り道も決して無駄ではないと思えるようになってきた。

倫理問題では、相反問題が圧倒的に多い。例えば、市街地の道路の渋滞をさけるためにバイパスを通そうとすると、そこにある豊かな原生林を伐採しなければならない。利便性が良好な環境かの相反である。DC-10の貨物ドアの設計にミスがあることに気付いた設計者が経営者に上申したが、損害賠償を恐れた設計会社が航空会社に報告しなかったため、2年後にDC-10は墜落事故を起こして乗員乗客全員が死亡した。経済性と安全性の相反であるが、技術者は当然安全性を最優先すべきで答えは簡単である。私にとっての究極の相反問題は倫理と効率であるが、これも答えは簡単で、研究会での勉強を踏まえこれからは効率を排除してじっくりと倫理問題に取り組んでいこうと思う。

以上

花田 眞 吉 (はなだ しんきち)

技術士(建設/総合技術監理部門)

倫理研究会 元代表  
倫理委員会 相談役  
中大実業株式会社

